



きみのかたち

△R18



You and My Memories.

Claude × Dimitri

- ・金鹿√後になります。
- ・最後の方にささやかな現パロがあります。



この間の
戦の

記録……か

帝国を退けた後
フォドラも
大分落ち着き
ました

今こそ
後世に残して
おくべきかと
思っています。

確かに。

複数の兵から
話を聞き
まとめましたが

やはり前線で
活躍した方に
監修して
いただきたく
思っていた
ところ

まさか盟主様と
ローレンツ様に
読んでいただ
けるとは

同盟の文士として
この上なき名譽
にございます。

...

話を聞いたのは
同盟兵から
だけか？

...

はい
そうですが？

そうか...



書き直しだ！

僕の活躍が
全く書かれて
いないじゃないか！

この
ローレンツ・ヘルマン
・グロスタールの雄姿が！



くくく…

悪いな。
優美高妙、
威風堂々にして

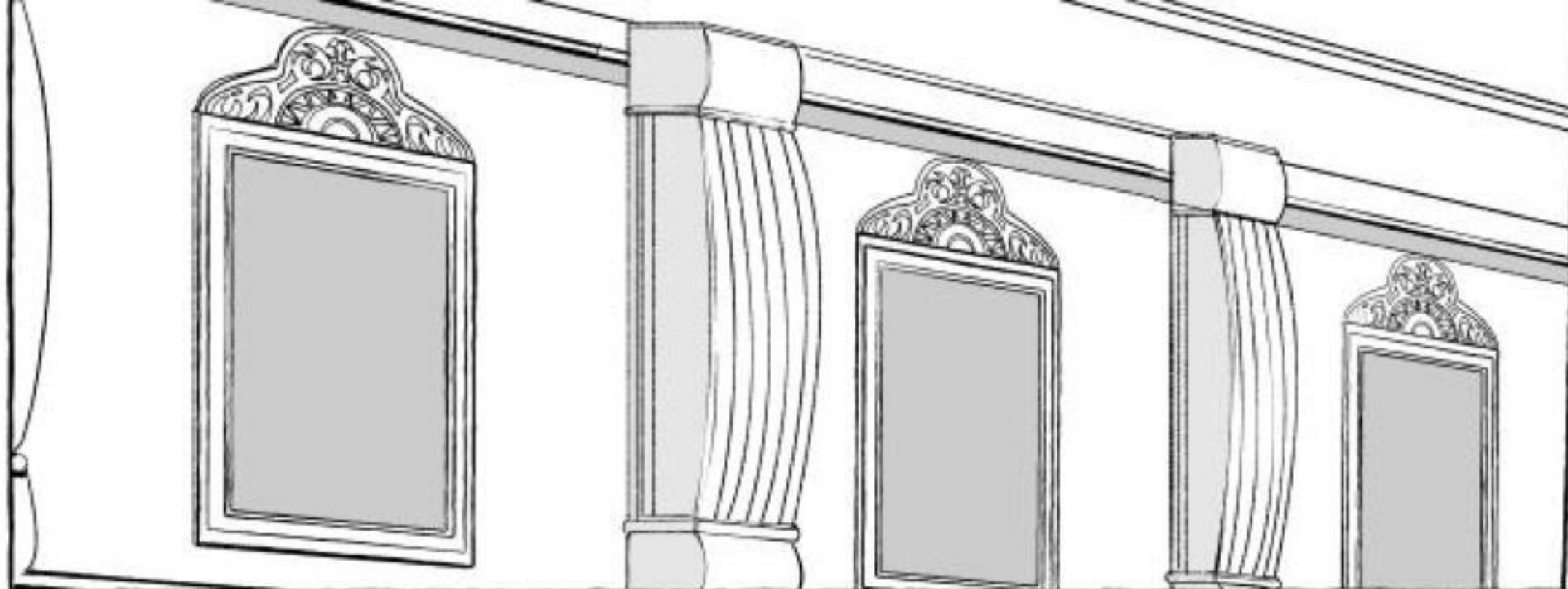
獅子奮迅の
活躍をした
グロスタール家
嫡男の要望だ。
叶えてやって
くれ。

馬鹿にして
いるのかね

臨場感のある
描写に
引き込まれた。

また持って
来てくれ。

はい！



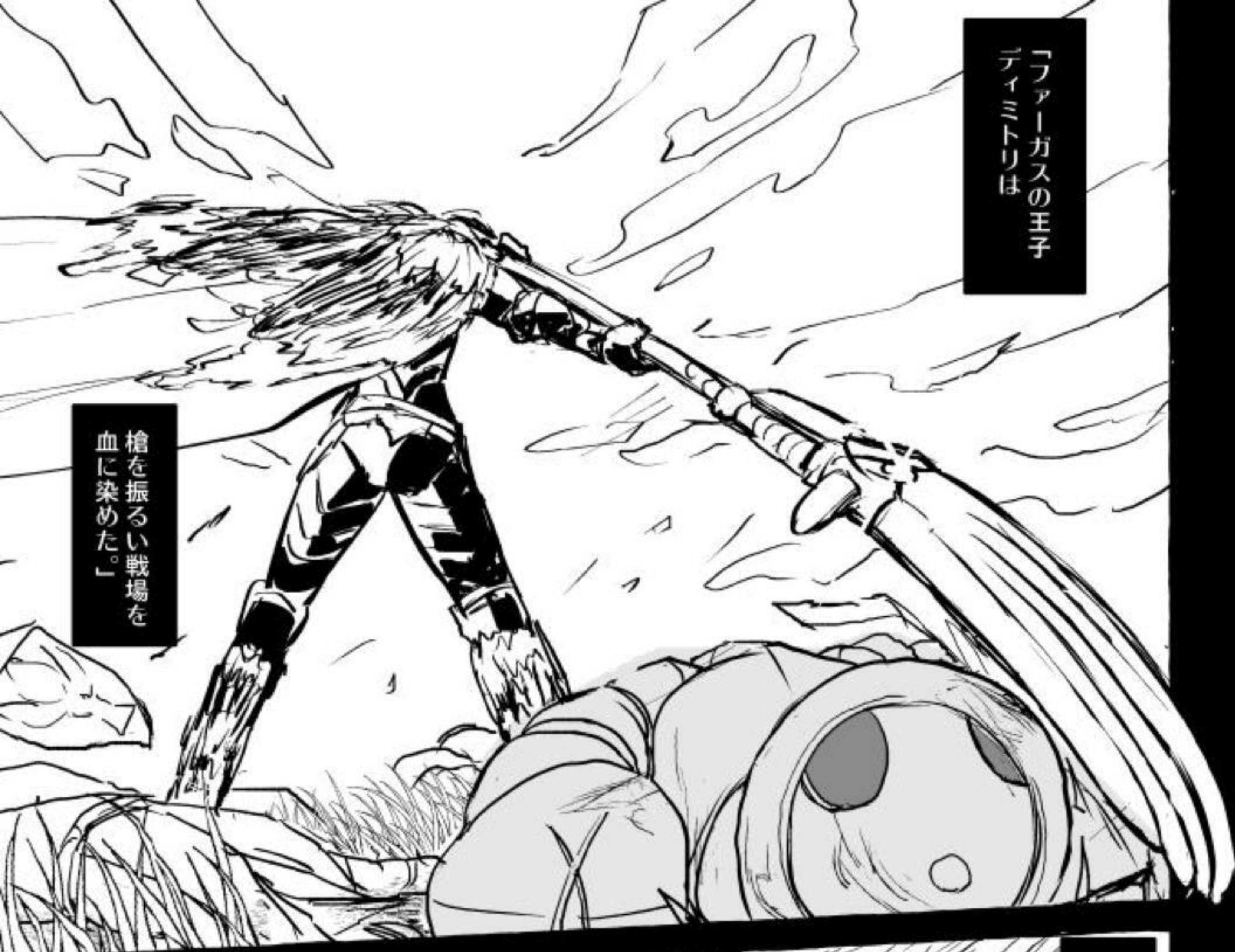
「ファールガスの王子
ディミトリは

槍を振るい戦場を
血に染めた。」

「王族としての
責務を忘れ

「政よりも殺戮を
好んだ——

「政よりも殺戮を
好んだ——





悪虐なる
ブレイドの
獣である。

「我ら同盟は
正義の矢にて
彼らを退け」

こういう偏った
感情をのせた
物語が

人々を結束
させるのに
役立つことは
理解している。

傷ついた
フォドラの
これからの
考えれば、

倒されるべく
して倒された悪は
居た方が都合がいい。



けれど

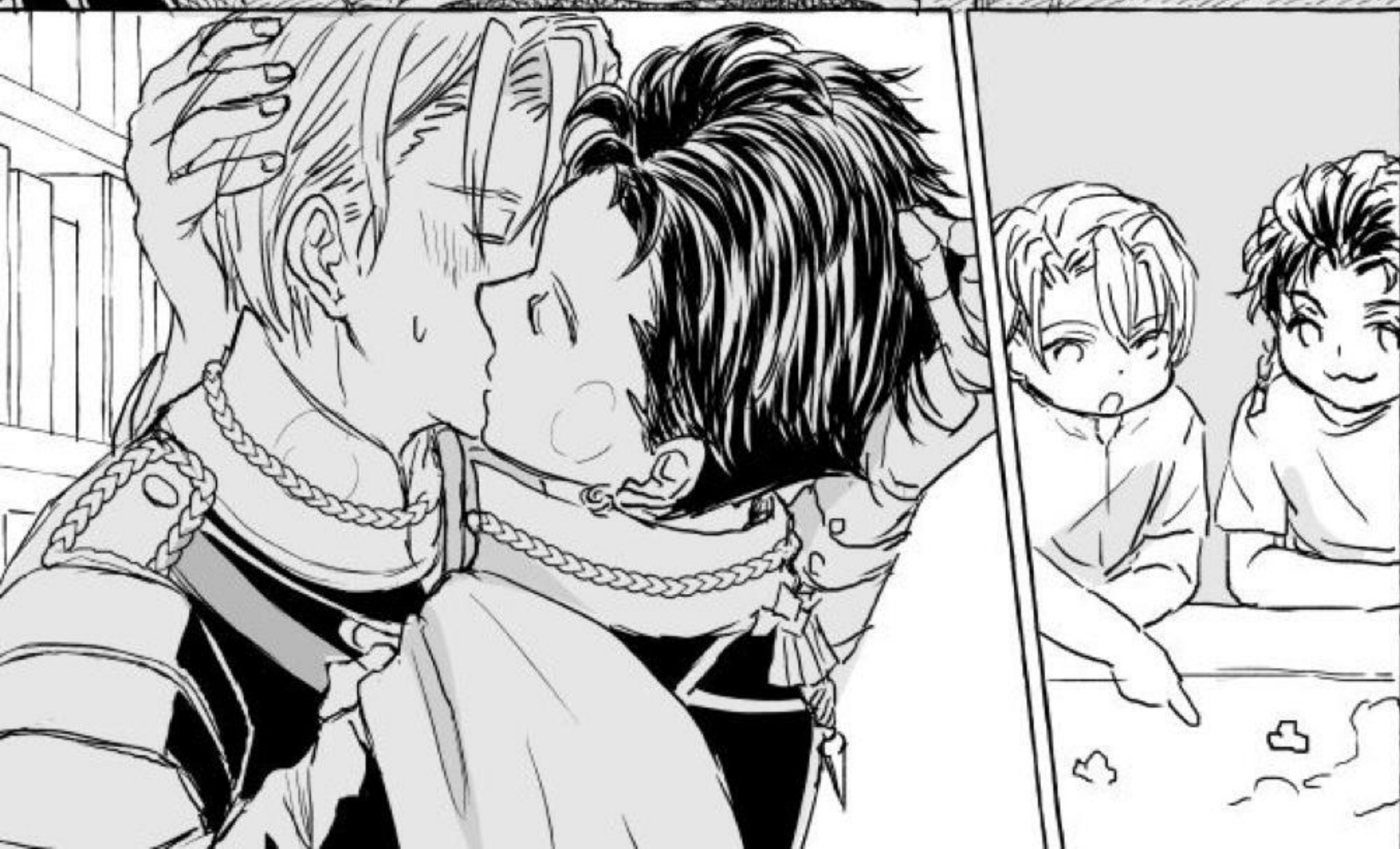
俺は正義のために
あいつと刃を
交えたわけじゃないし。

「帝国の槍に
貫かれ
妄執の王子は
最期を迎えた」

それに



俺の知っている
あいつは



盟主様

は

一段と美味しい
のが入って
ますよ！

いつも
美味いけどな。

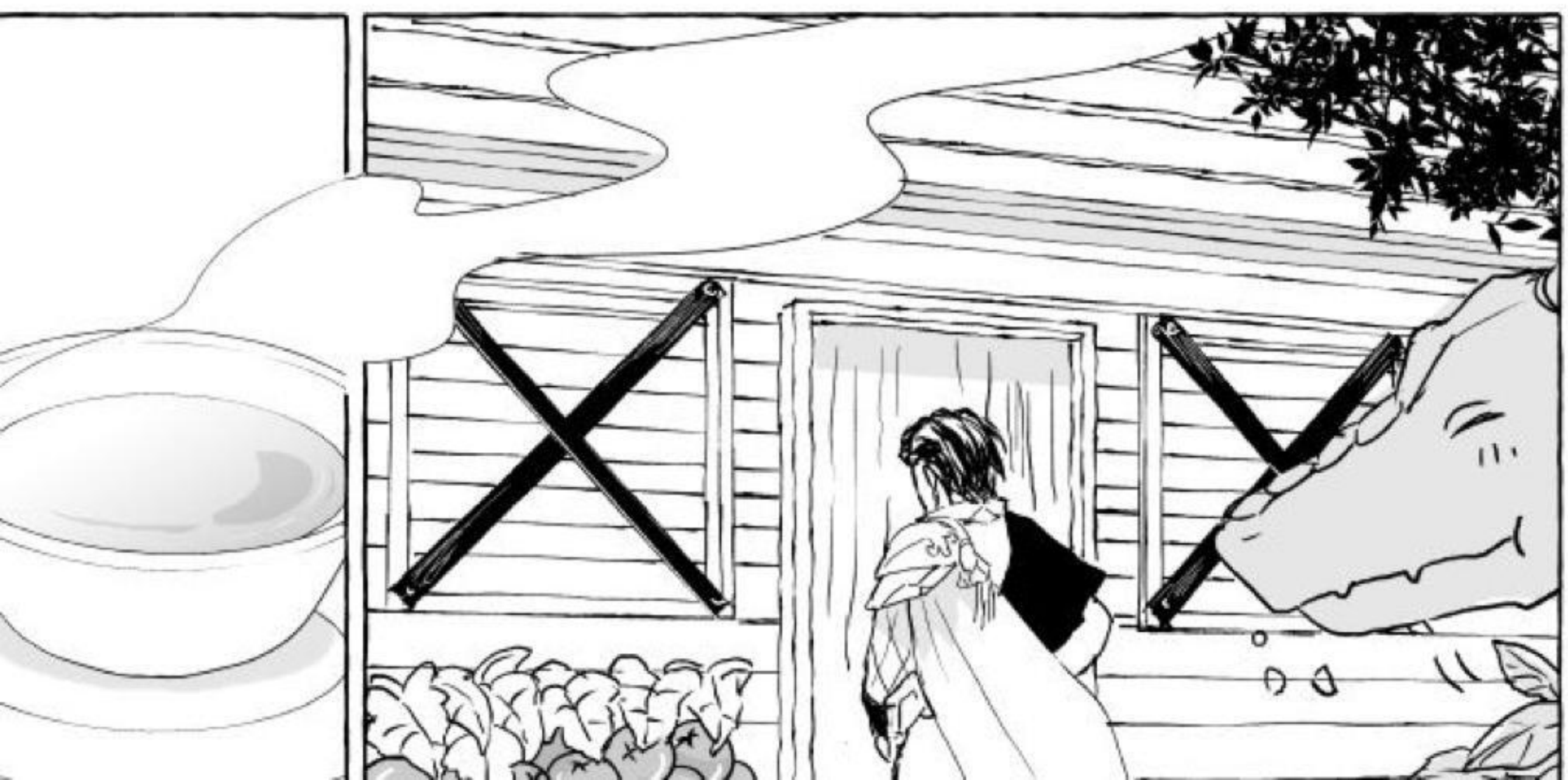
またまた
お上手で。

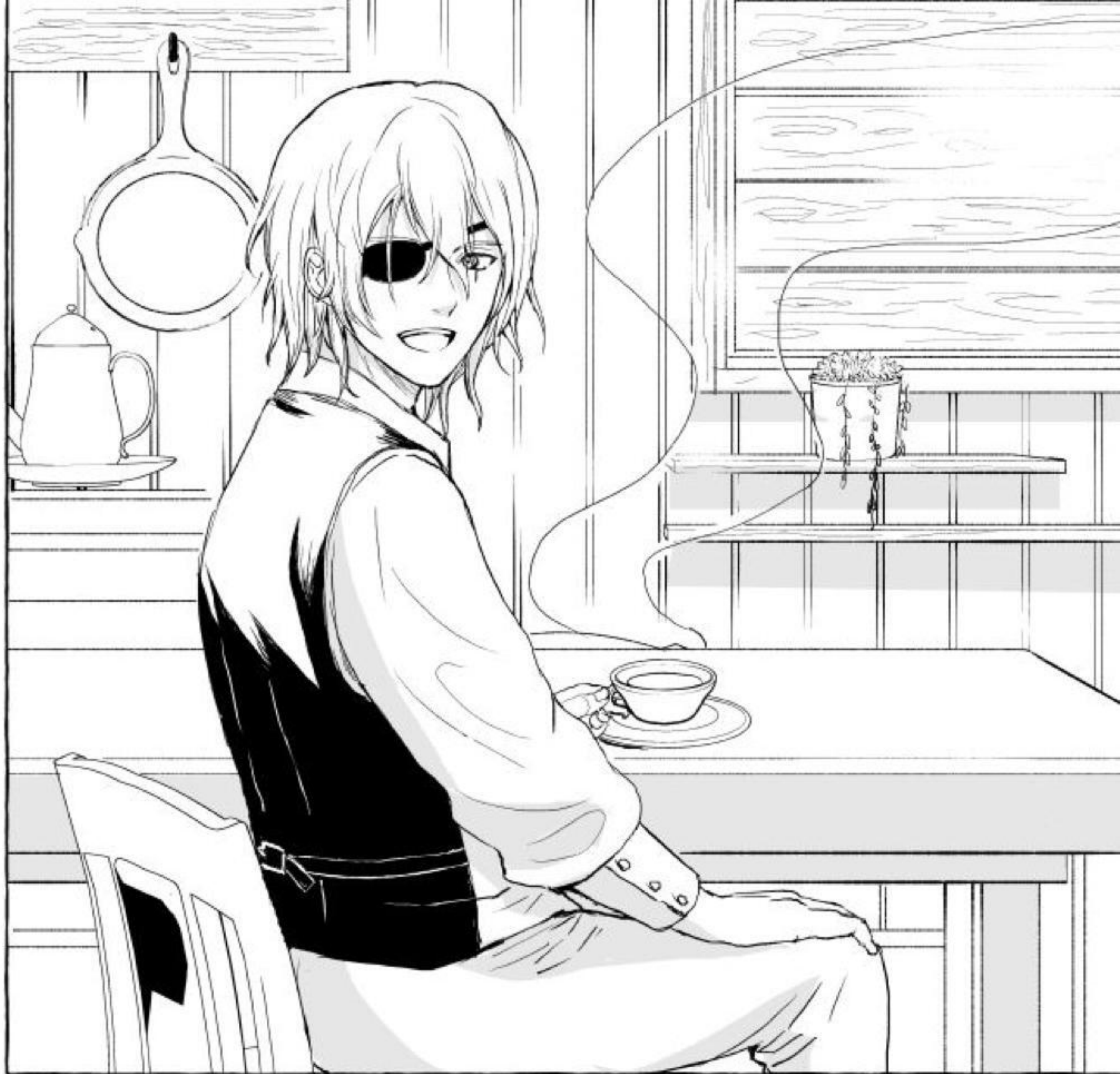
カミツレ茶が
本当に
好きですねえ

けど
買ったものは
ほとんど友人に
飲まれちゃうんだ。

それじゃあ
いつもより
多めに入れて
おきますね。

助かる。







ただいま
デIMITリ。



自分で育てた
ものをこうやって
料理するのは
楽しいな。



美味そう
だなあ

今日収穫
したトマトを
使ったんだ。



最初はまな板を
割ってたけどな。

言わないで
くれ。



記憶を失う前も
こんな風に

料理を
楽しんでいたの
だろうか。

いや、お前は
あまりやろうとは
しなかったよ。

味覚も
無かったし

そうか
すまない。

なんで謝るんだ？

今の俺は
友人だった
頃の俺とは
違うのだろうか？

なのに
こんなに世話に
なってしまうて

やはり
お前にもっと
昔のことを
話してもらって

記憶を取り戻した
方が

焦るな。

ゆっくりでいい。

記憶がなくなたって
お前は俺の
友達だ。

……

クロード、
その……

俺達は
本当に

ただの
友人
だったのか？

お前といると
何だか…

その…



「あたし、彼を
見たわ。」

殿下を...

ああ！

死ねな

死ねな





記憶喪失の
デイミトリを
匿ってから
もう一年近く



俺は『ファーガスの
王子デイミトリ』の
存在を隠し続けている。

デイミトリ
自身にすら。

多くの犠牲を
払って得た
平和に

ブレッドの
血は刺激が
強すぎる。



それに



昼に読んだ戦記と
やっけることは
そう変わらないよな。

どちらにせよ
俺の都合だ。



しかし…





抱きたいなあ。



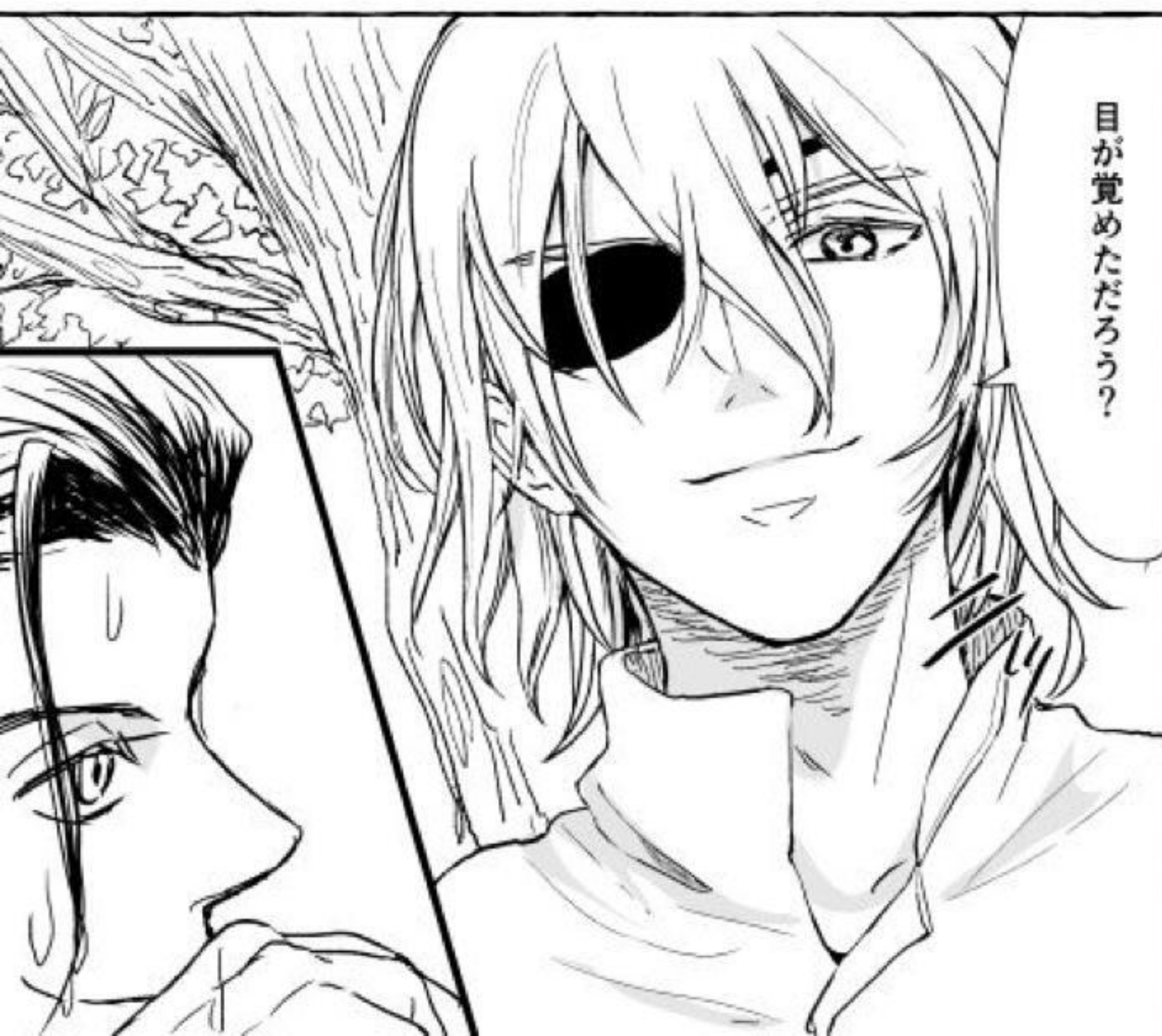
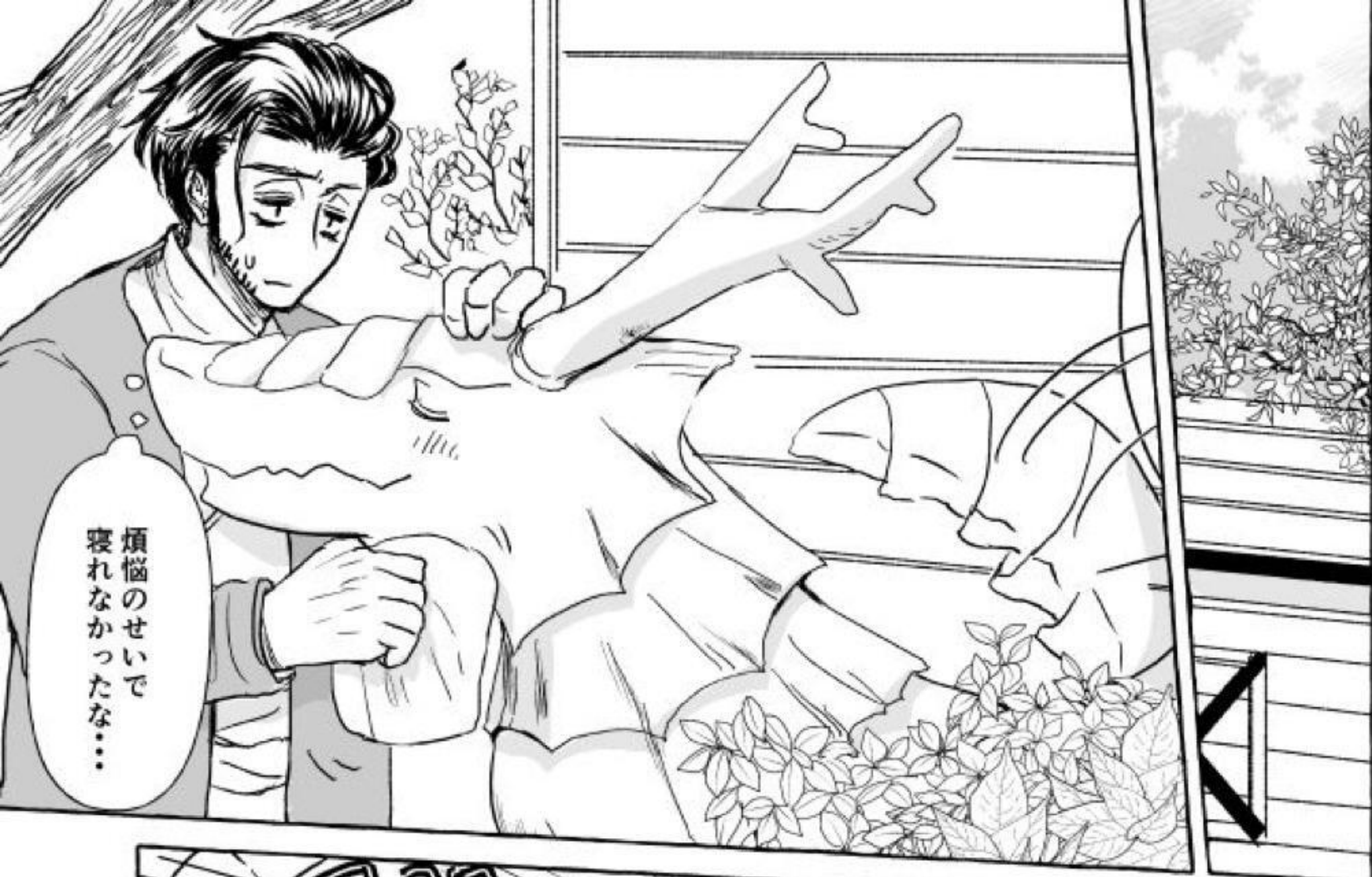
ガマン
ガマン



でも
俺とまた
深い仲に
なったら

何かのはずみで
記憶が戻っち
まうかもしれない。

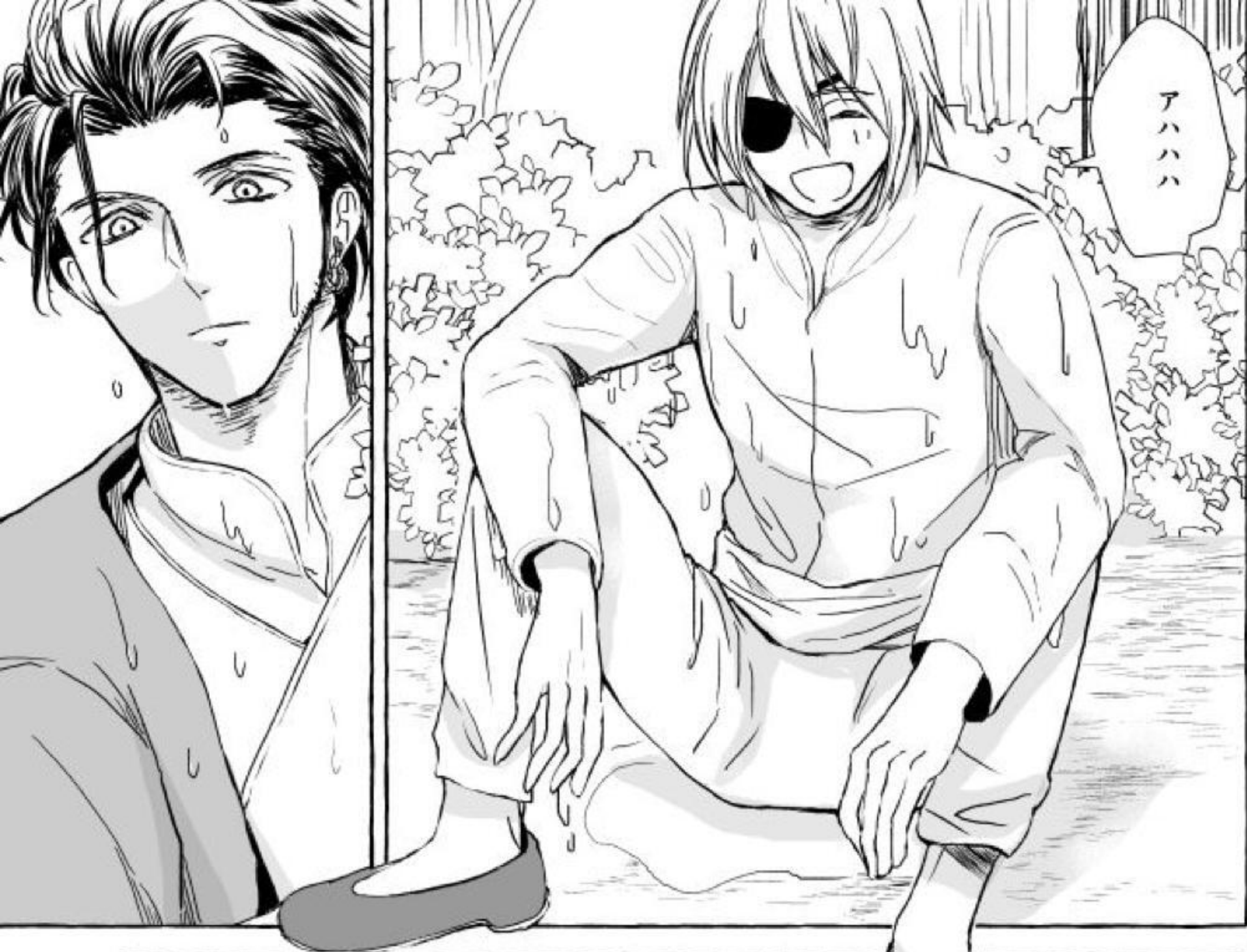












アハハハ



こういう風に
笑う奴じゃ
なかった。

でも
こんな顔も
見てみたかったし

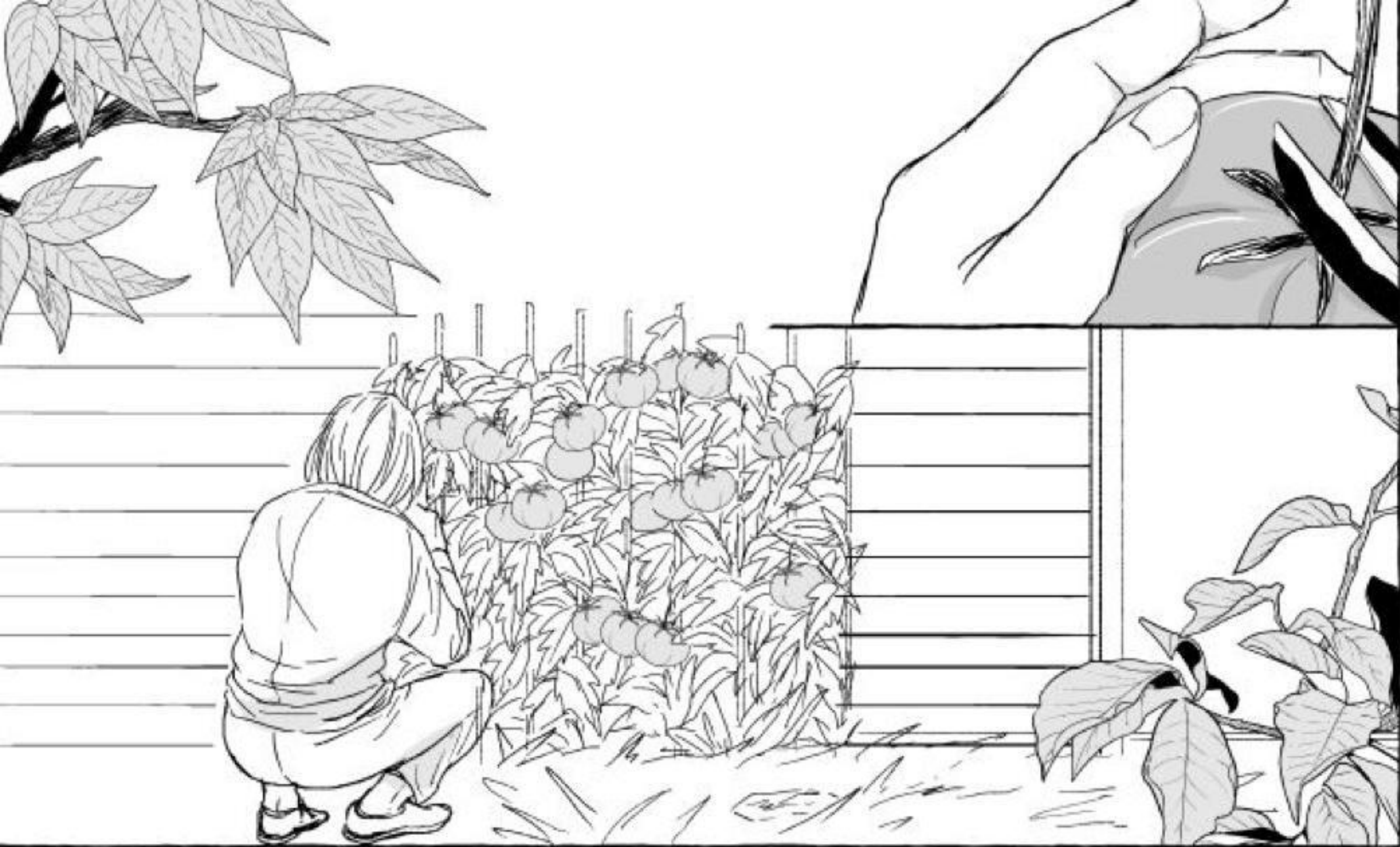


俺の知ってる
デイミトリは

だから

だから
いいんだ。



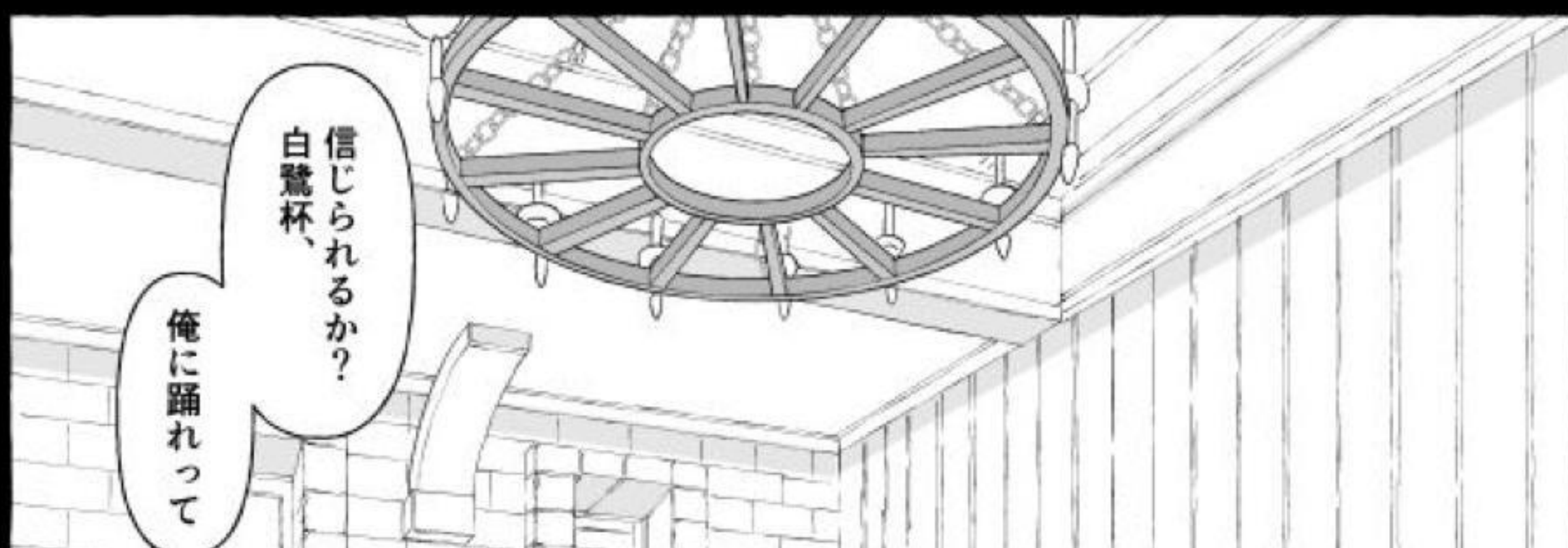












信じられるか？
白鷺杯、

俺に踊れって



ああいうものは
苦手なんだが
クロードの踊りは
楽しみだな。

王子様は
エーデルガルトと
踊るんだろ？

まさか。



ふい！

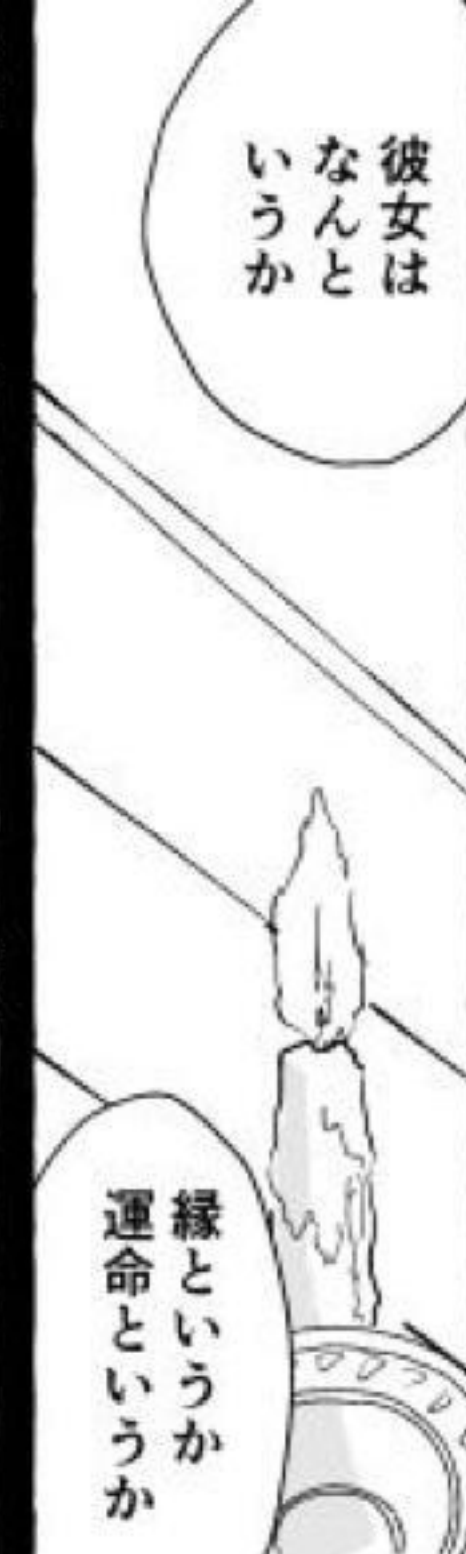
笑い事
じゃないぞー
王子様



前に否定されたが
やっぱり
腑に落ちない。

お前、本当に
エーデルガルトに
気がないのか？





本当に

彼女は
なんと
いうか

そういうのでは
ないんだ。

縁というか
運命というか

ちゅっ

んっ

んう

今ちょっと妬いた



だから違



ん...

はあ

あ

ズッ

エーデルガルトが
挙兵!?

セイロス教に
牙を剥くなんて
信じられない。

黒鷲級の
奴らは
最初から
そのつもりで?

私たち
これから
どうなるの
かしら

王子さ...

はっ

遠くからでも
分かった。

硝子みたいないな
目玉の向こうに
ずっと隠され
てきた

溶岩のように
熱くてドロドロと
した感情が

今、表に
出て来ている。

こいつは、
ずっとやりた
かったことを
今、為そうと
しているんだ。

なら俺も自分の
野望の為に
動かないとな。

そうだろ？
王子様。





ディミトリの
居場所が
わかった。



ありがとう
きょうだい！



すぐに

クロードは
ディミトリを
どうしたいんだ？



わからない……



決断が
できない。

きょうだい、



俺は
何度も
考えて
しまっただ。



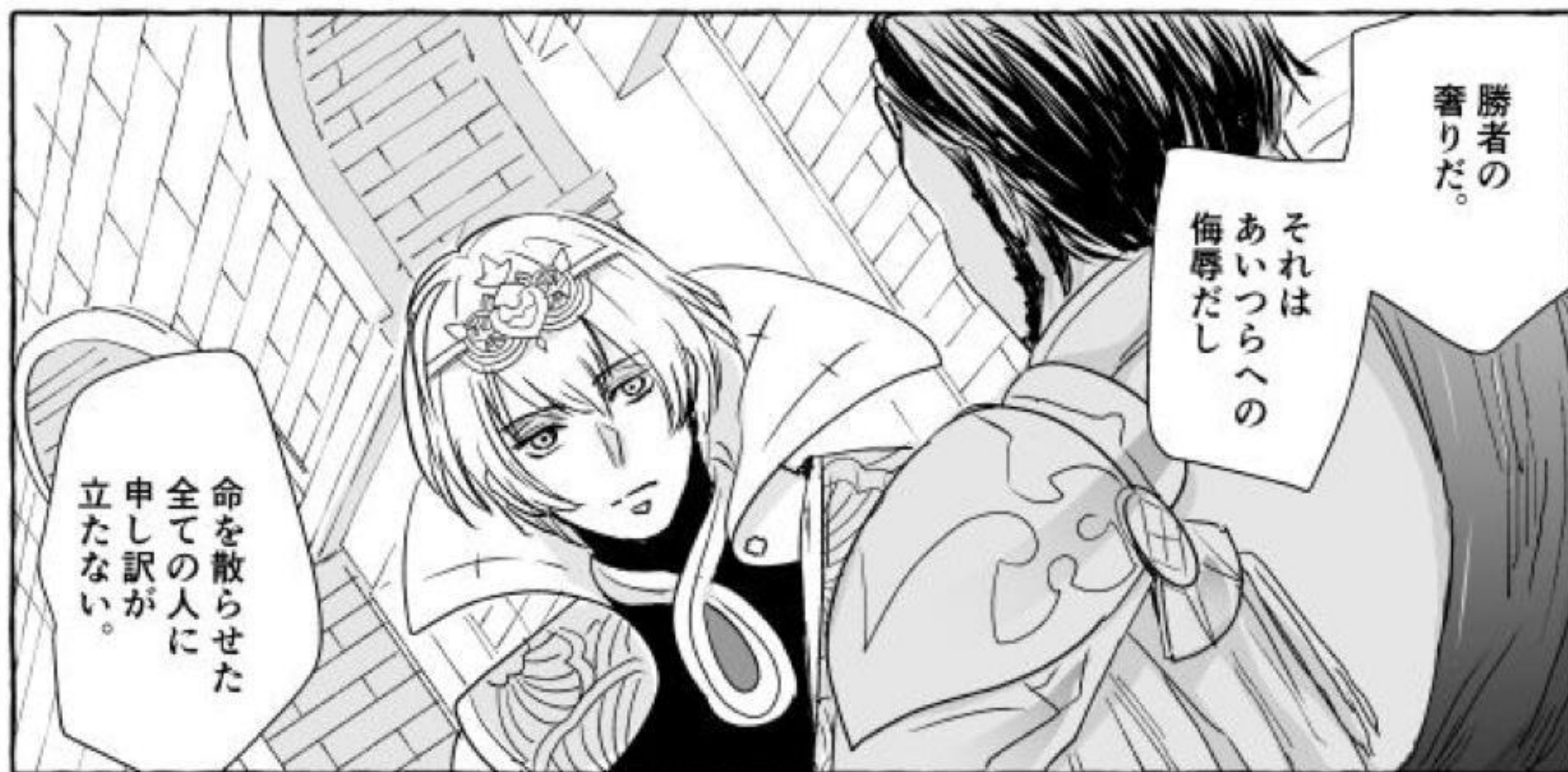
後悔する
わけに
いかないのは
分かってる。



グロ
ンダーズで
あいつらと
刃を交えたことを



あの時
勝関を
上げた
俺が



勝者の
奢りだ。

それは
あいつらへの
侮辱だし

命を散らせた
全ての人に
申し訳が
立たない。



けれど
何度も
考える。

本当に
他に手は
なかったか。

どこかで
大きく選択を
誤ったんじや
ないかって

過ぎたことを
考えても
仕方ないのに

別にクロードは
後悔に酔ってる
わけじゃないだろ

あの戦いは
どうしてもな

過去の自分に
問い直して
いるんじゃないのか？

よりよい次に
繋げるために

次……



引き留めて
悪かった。

ディミトリ
らしき男は
グロンダーズの
周辺で目撃
されている

情報源によると
ボロ布をかぶって
顔を隠して
いるらしい。

記憶が戻って
いるかどうかは
不明だ。



あのあたりは
元帝国兵の
盗賊も多い。

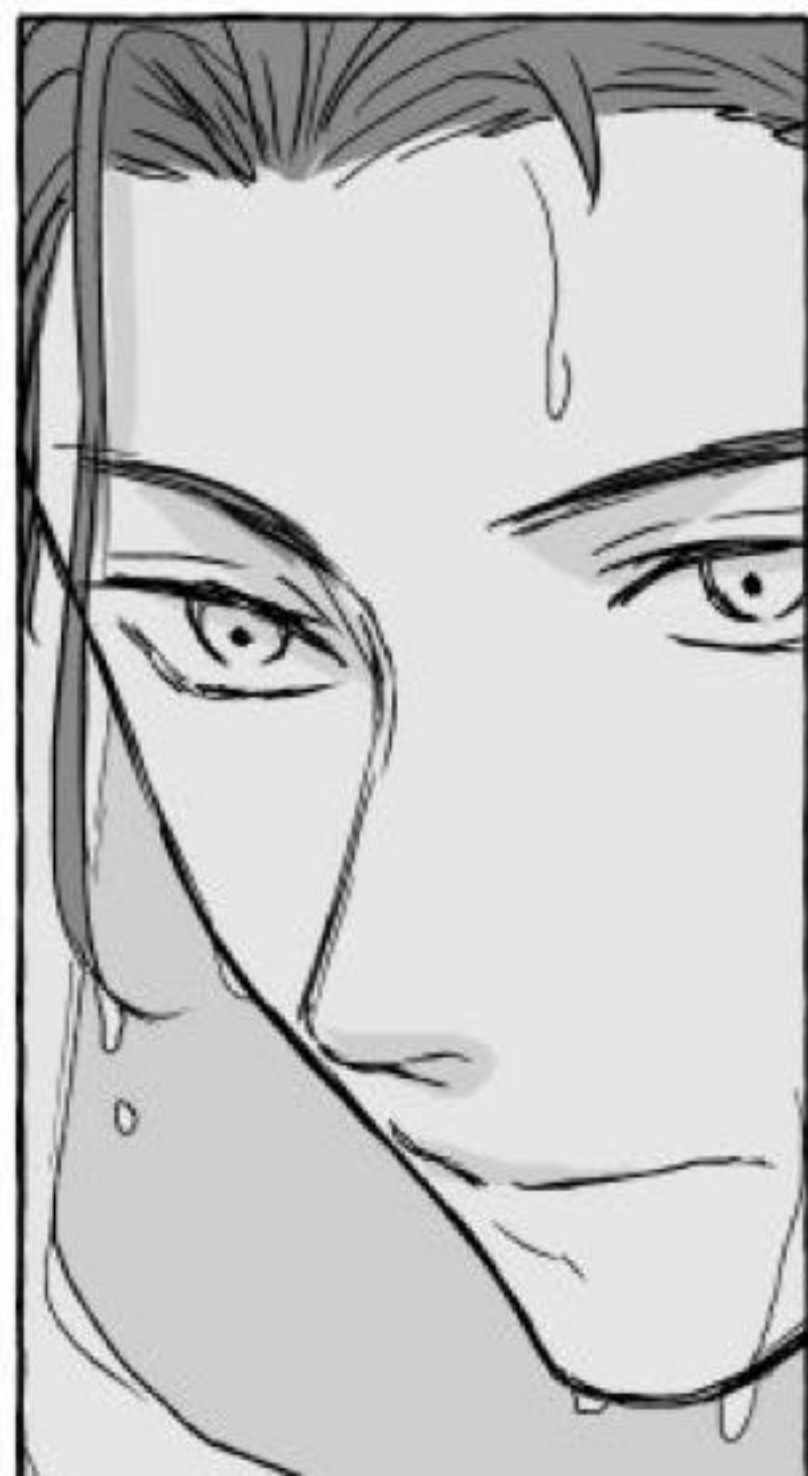
気を付けてくれ。

000



グロンダーズ……

嫌な記憶が
蘇りそうだな





おいおい

勘弁してくれ

無事を喜ぶ
間もなく
危機的状況じゃ
ないか。



一番
いい方法は
明らかだが

だが……

「クロードは
デイミトリを
どうしたいんだ？」



相手は3人
しかも間合いが
近い。

俺一人だと
速射で
ギリギリって
ところか

下手すると
デイミトリが
危ない。



あの様子、
まだ記憶は
戻ってないな。



そうだ。

俺は
あの戦いで
ディミトリを
終わらせたく
なんかなかった。



『よりよい次に
繋げるために』



あいつと
未来を
次の、
新しい時代を
生きたかった。

だから
助けた。

なのに



あいつを
過去に閉じ込め
ようとした。

ディミトリ自身をも
焼き尽くすような
執念と向き合う
覚悟が決まらな
かったんだ。

愛してるって
いうのだ。

思い出せ
デイミトリ!

そんな奴ら
お前の敵
じゃない！







一撃で全員
吹き飛ばすとは
思ってたかった。

さすがだな。



俺は、お前の敵
だったのか？
クロード

友ではなく



飛んできた
戦争の記録を
読んだ。

まさかとは
思ったが



どこか怪我
してないか？

近づかないでくれ



別に
敵になっただけ
でも
なかったしな



友達だったのは
本当だよ。



だが
戦った。

互いに譲れない
ものがあって。



シルヴァン・ジョゼ・
ゴージェイエ

フェリクス・ユーゴ・
フラルダリウス

イングリット・
ブランドル・
ガラテア

王子の
俺を止められ
なかった
愚臣と
書かれていた。

本当に
そうだったのか？



彼らの名を見た時
温かい想いに
包まれた。

他にも
大事な誰かが
すぐ傍に
居たような
感覚もある。

記録以上の
何かを俺は
知っているはずだ





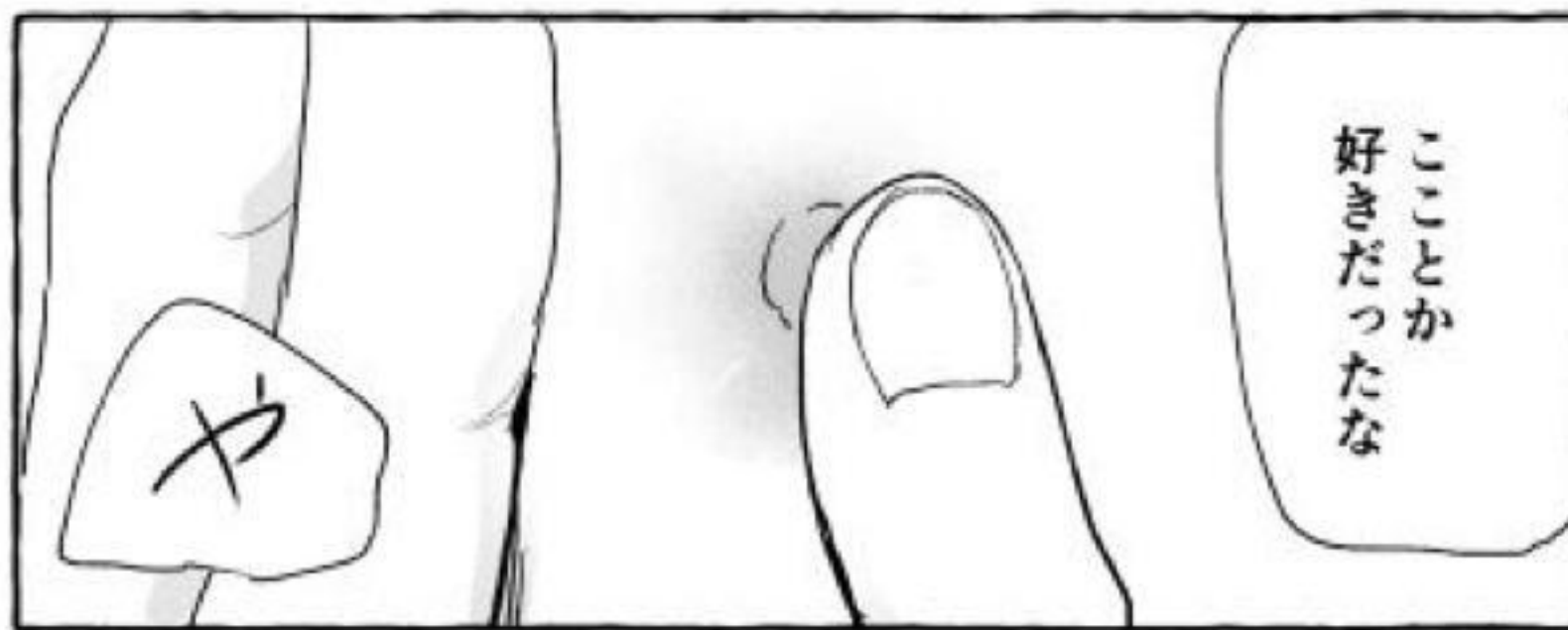
もう
離さないから。















ひとり
で
する他
なかつたんだ



いててっ
よせよせ
力強いんだから







ここから先は

ビュッ

ビュッ

全部俺が
満たしてやる。







こういう
楽しい記憶だけじゃ
ないんだろうな。



俺とお前と

あと誰かが
池で濡れて

蒸し風呂で
温まって

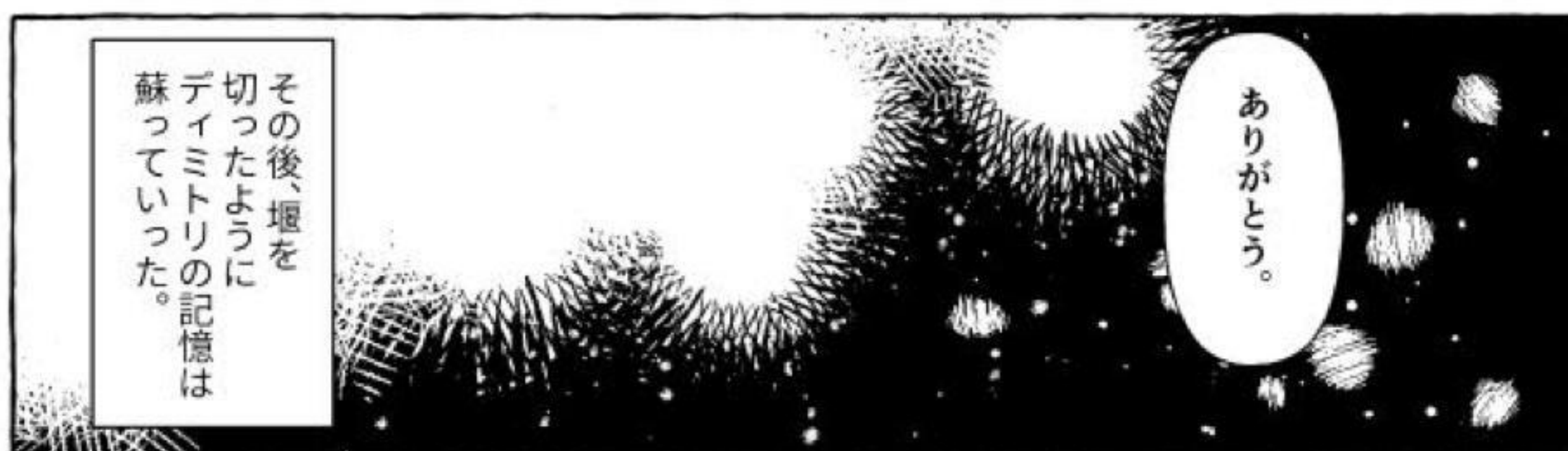
あったな〜



大丈夫。

傍にいる。







はい



おいしいよ。



元気出してね。



それから徐々に
落ち着いていった。

／＼ゆい



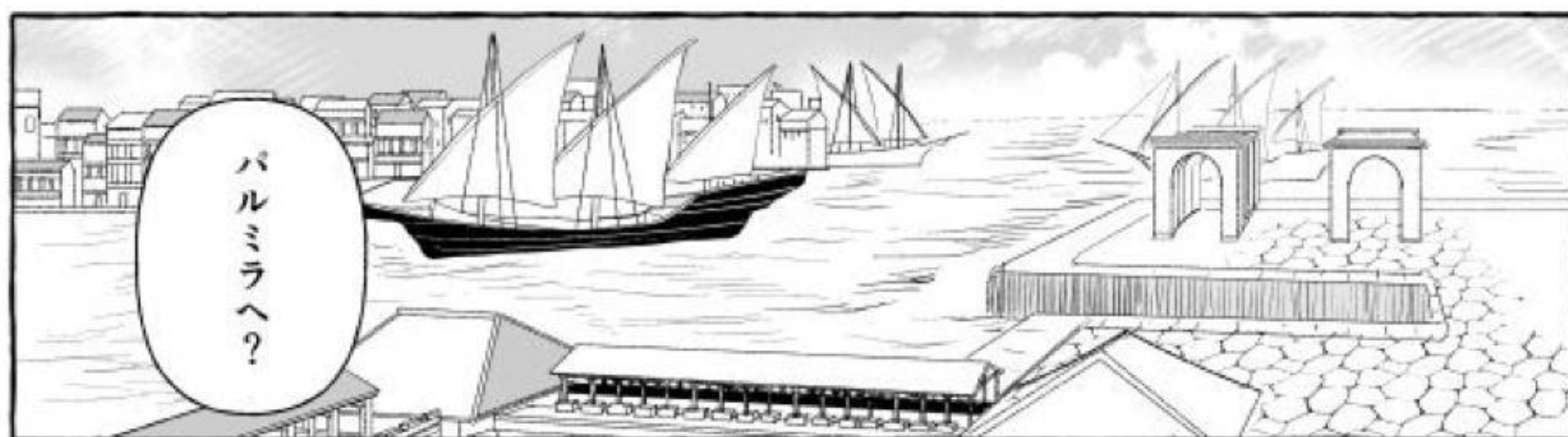
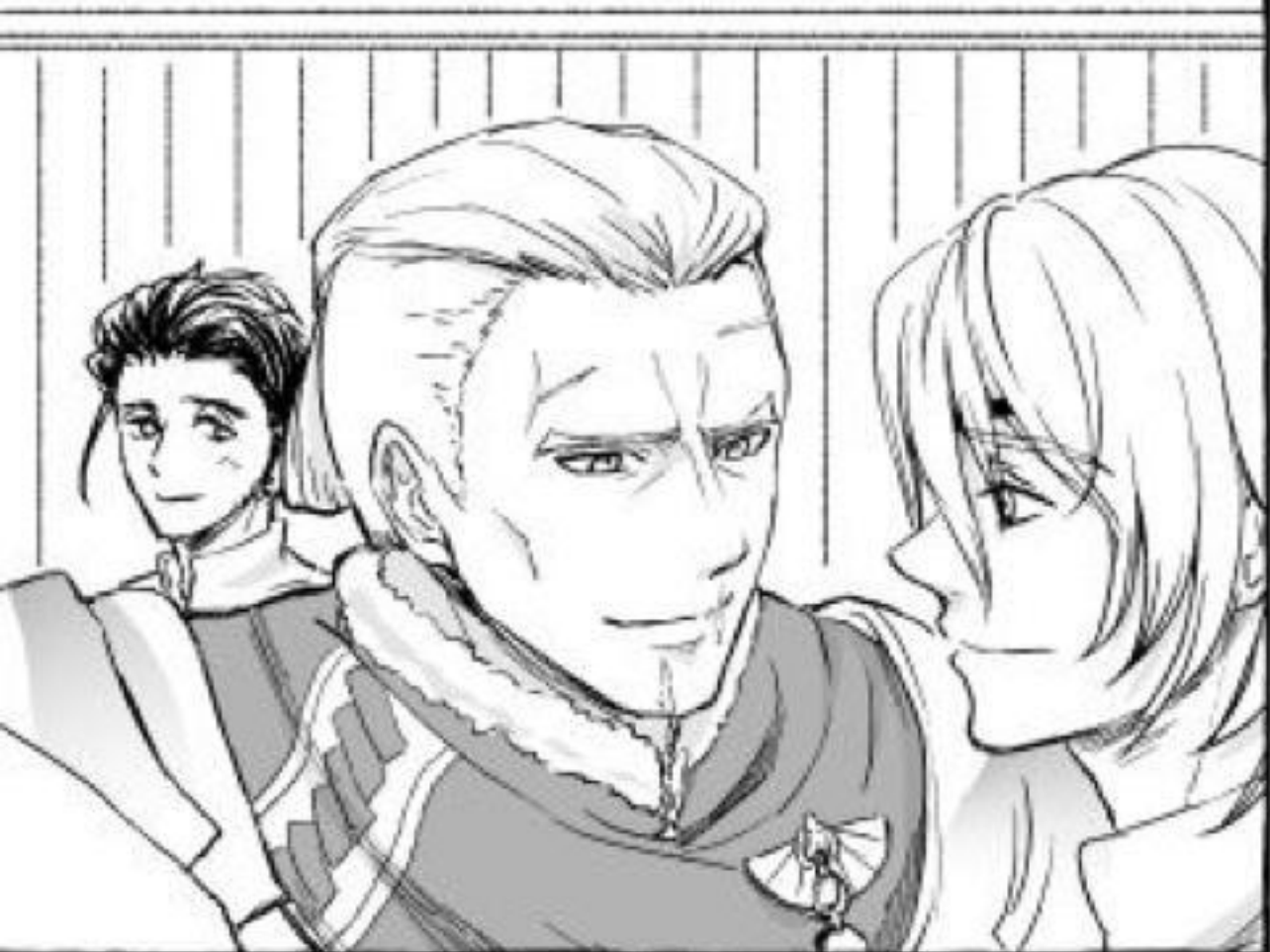
やっぱりこいつは
王になるために
生まれてきた男で

戦争で傷ついた
民が前を向いて
生きようと
しているのに

自分が
止まっている
わけにはいかないと
考えたようだった。

ドウドウと
再会した時は

三人で
泣いたり
笑ったり
しながら
酒を飲み
まくった。



パルミラへ？

それは俺も
行ってもいい
…のか？

そうだな。

意外だな。
お前はここに
残りがるか？

確かに、ファーガスから
離れるのは寂しいし
陰で先生を
手伝った方が
いいようにも
思えるが

パルミラの文化や
特産物は
魅力的だ。

長期的に見て、
国交を築くのを
手伝った方が
祖国のために
なるだろう。

こいつ本当に
国の事になると
よく話すな…

それに





離れるわけには
いかないだろう。



こんなものを
渡されて



俺と来てくれ、
デイトリ。

ああ。



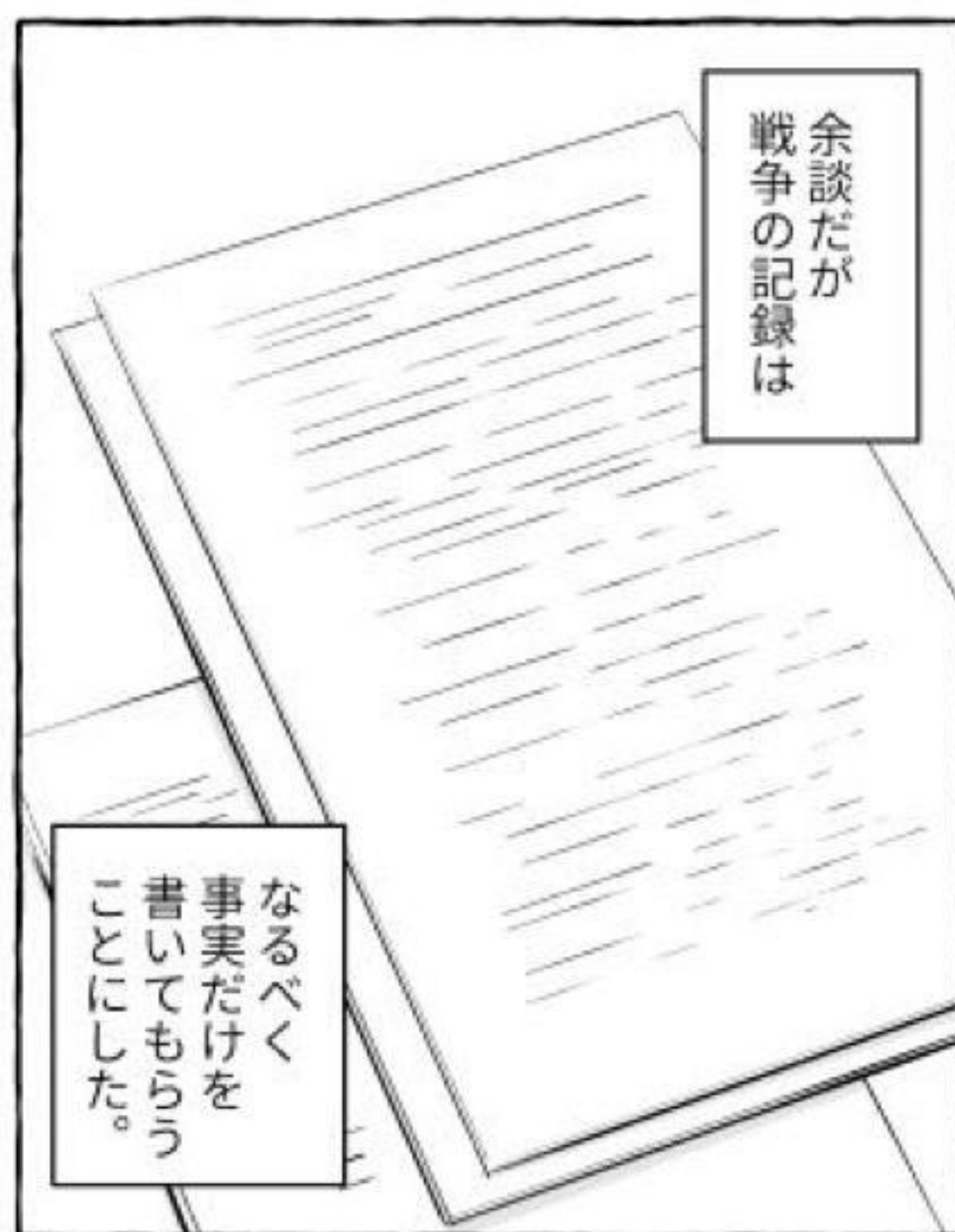
言葉や文化の
違いで迷惑を
かけると思うが

相変わらず
真面目だな。
王子様は

ハイ



ん。ちゅ。











随分古い本
読んでますね

わあ

殿下。

『三国異聞録』

千年以上前に
書かれたん
でしたっけ

不思議なことにな
シルヴァン、

この中に
お前と名前が同じで
言動まで
かなり似ている
男がいて

お前の素行を
正すのに
何か参考に
なるんじゃ
ないかと
思ったんだ。

それは
お手数おかけ
しました。

あと
殿下と
呼ぶな。

だって
殿下って
感じだから

続きを借りてくる。

あの『三国異聞録』、
バルミラの人が
想像で書いた
ものってことで
信憑性がないって
言われてきてただろ？

それが
最新の研究で

戦死したはずの
ファーガスの
王子が書いたんじや
ないかって言われて
いるんだ。

筆跡が
ガルクマクに
保管されていた
ファーガスの王子の
勉強ノートと
びったり合致して

筆跡鑑定って
1000年前の
原稿があるって
こと？

見つかったん
だってさ
リーガン家の
宝物庫から

なぜ
リーガン家に？

さあ？

昨日転校してきた
奴に聞けば
わかるん
じゃないか？



俺もなんだ。



『三国異聞録』
好きなのか？



教科書で英雄扱い
されてるグロスタール、
こっちでは嫌味な
貴族って感じだし
どうも匂うんだよな。

正史とされて
いる方は
当時の同盟貴族に
有利に書かれた
ものの
かもしれない。

興味深い
解釈だな。



クロード……フォン……

昨日転校して
きたんだ。
よろしくな。



おっと
名乗ってなかったな。

俺は
クロード・フォン・
リーガン。



お読み下さり

ありがとうございました。





FETH UNOFFICIAL FANBOOK
CLAUDE X DIMITRI



きみのかたち

⚠ R18

FETH UNOFFICIAL FANBOOK
CLAUDE X DIMITRI